



## 運動会全体練習



今日は、運動会の第一回全体練習が行われました。実は、今年度初めて帯西小学校のみんなが一つの場所に集まることができました。コロナ禍にあり、普段の集会活動は、オンラインで行ったり、たてわり班活動もチームごとに分散して集まったりしているので、全校児童が一堂に会する様子は壮観でした。今日の練習のとき、私の方からも「これが帯西小学校の今年

度の仲間です。さあ、周りを見渡して見てください。これが今年のチーム帯西です。」と子供たちに伝え、さらに「『こんな運動会にしたい!』だから自分はこんなめあても持って頑張るぞ!」と考えてください。」と話をしました。

運動会などの行事が終わって、自分のめあてを振り返ったときに、「帯西レンジャー」の様々な心が伸び、成長を実感できる子供たちに育てて欲しいと思います。このように、学校では、子供たちがめあてに向かってがんばる姿を評価していきたいと思っています。お家でも話題にあげていただけるとありがたいです。

## ☆ひこうきぐも vol.2

ロサンゼルスは平面的な都市で、街も広く、移動するには何と言っても車が一番便利でした(今は地下鉄も通っています)。私も日本で国際免許証を取得し、レンタカーを借りて何度か運転しましたが、ぼーっとしているときは、ついつい反対車線(アメリカは右車線を走るため)を走ってしまいそうになりました。

車の運転にも慣れ、サンセットブルーバードという通りを車で走っていたときの事です。私が一台中の青いバンを追い越し、しばらくするとまたその車が私を追い抜きにかかりました。そのとき車に「コツン」という音がしたので、「石か何か当たったんだろう。」という位にしか考えていませんでした。自分では何が当たったのか見当もつきませんでした。車を返すときに「これはピストルの弾の跡だよ。」と言われぞっとしました。

当時のアメリカは、経済が低迷していて、国民もそのあおりをくらって、失業率、犯罪率ともに高い水準のときでした。ニュースでも、銃による犯罪を連日のように報道していました。その中でも特殊な銃犯罪が、カージャックで、駐車場や信号待ちで駐停車している車を銃で脅して奪い取るというものです。ひどいときには命まで奪われてしまうケースもありました。私の場合は、地元の人が「ハンティング」と呼んでいたケースで、銃で走る車を狙われるというものでした。

日常化した銃の犯罪に、どこか人ごとのような気がしていましたが、このとき初めて現実を目の当たりにし、恐怖心を覚えました。しかし本当の恐怖と悲しみを感じたのは、この数日後でした。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況が違ふことがあることをご了承ください。